

自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 **日本自動車会議所**
Automobile Business Association of Japan

〒105-0012

東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館

電話：03 (3578) 3880

FAX：03 (3578) 3883

URL

https://www.aba-j.or.jp



第3回 CSDP大賞2023

2024 **2** 特別号
No.956

発行人 山岡 正博 編集人 田村 里志



第3回(2023年度)クルマ・社会・パートナーシップ大賞表彰式

大賞を受賞した自動車技術会の大津啓司会長(写真左から2人目)と東雄一常務理事(同3人目)



選考委員特別賞を受賞したはちどりの石原慧子社長

受賞者それぞれの熱意に光

表彰式と交流会を開催



交流会では懇親を深め合う参加者の姿みられた

第3回クルマ・社会・パートナーシップ大賞

日本自動車会議所(山田竹志会長)は2024年2月9日、東京都港区の第一ホテル東京で第3回(2023年度)「クルマ・社会・パートナーシップ大賞(CSDP大賞)」(共催：日刊自動車新聞社)の表彰式を開催し、受賞者をはじめ関係者など約100人が出席しました。CSDP大賞は、自動車業界で働く50万人と自動車ユーザーのさまざまな貢献に感謝を伝えるとともに、素晴らしい取り組みを世の中に広めていく表彰事業として2021年に創設しました。主催者を代表して挨拶した山田会長は、まず1月に発生した能登半島地震の犠牲者に哀悼の意を表し被災者へのお見舞いの言葉を述べた

後、次のように話しました。「受賞された取り組みは、受賞者それぞれが持っている熱意や創意工夫、実行力などが、大変強く心に刻まれるものでした。主催者としてより光をあて、幅広く広報を行ってまいります。CSDP大賞は、当会議所の大切な事業として来年度以降も継続し、皆さまに認められ、成長していく自動車業界の重要な表彰制度にしっかりと育てていきたいと考えています。この後、受賞者への賞状授与などのセレモニーが行われ、表彰式終了後は別フロアへ会場を移し交流会が行われました。

自動車技術会のキッズエンジニアが大賞に

第3回目を迎える今回は、全国から62件の応募があり、25件を「グッドパートナーシップ事業」に選定しました。その中から「大賞」、大賞に次ぐ「選考委員特別賞」、そして「モビリティ・ソリューション賞」「地域・コミュニティ活性化賞」「SDGs賞」「自動車ユーザー連携賞」の各部門を選定していきます。大賞には、自動車技術会の「キッズエンジニア」が輝きました。2008年から続けているこの活動は、自動車を支える科学技術やものづくりを学ぶ機会を小学生に無

選考委員特別賞は「はちどり」

選考委員特別賞には、自動車教育所を運営するはちどりの交通安全教室が選出されました。2020年9月に、静岡県伊豆市で発生したバス置き場での児童の死亡事故がこの活動の原点となったとして、事故の翌月、同社は児童を対象としたこの取り組みを開始しました。

受賞者 喜びの声

選考委員特別賞を受賞したはちどりに対しては「バス置き場による死亡事故という非常に痛ましい事件に即座に対応し、活動を開始したところを高く評価しました」と話しました。

選考委員の加藤和夫氏(自動車教育所)は「交通安全教室は、これまで1100人がクラクションを鳴らす体験をしています。同社は自動車産業に長年携わってきたこともあり、石原社長は「幼い頃からクルマは人を幸せにする乗り物と教わってきた」とし、「交通安全教室という小さな活動ですが、子どもたちの命を守り、クルマが人を幸せにする乗り物であり続けるよう努力していますが、無力ではない活動を続けていきます」と話しました。

選考委員長の鎌田美氏(東京学芸大学教授・日本自動車協会)は「今年度は62件の応募がありました。前回に比べて減少してしまいましたが、回を重ねたことで『しっかりとした事業でない』と応募できないのでは」と話しながら出展していただけないかと思いましたが、今年度は非常に優れた事業が多かったという印象です」と選考の感想を述べました。大賞を受賞した自動車技術会の審議では、

「提供できる取り組み、近年では時代の需要に合わせてプログラムなども取り入れています。表彰式で登壇した大津啓司会長は「キッズエンジニアは支部のイベントも含めてあつという間に応募定員が埋まってしまふ人気ぶりです。参加する子どもたちの目は本当に輝いています。時に技術に苦しめられているわれわれ大人たちは、自動車技術が本来はどれだけ面白いものかというのを子どもたちの笑顔から教えられています」と喜びを語っていました。

「今後も自動車技術をキーワードに社会の発展に貢献していきたい」と、子どもたちを含め、育成型な取り組みを育成していきたい」と抱負を述べました。

また、表彰授与後に行われた大賞受賞者のプレゼンテーションでは、東雄一常務理事が取り組みのポイントなどを説明し、「キッズエンジニアは自動車に関わる多くの皆さまからの支援で発展してきました。今後もさらに充実したプログラムを目指し、進化させていきます」と話しました。

選考委員特別賞は「はちどり」を選定した。選考委員特別賞は、自動車教育所を運営するはちどりの交通安全教室が選出されました。2020年9月に、静岡県の認定こども園で発生したバス置き場での児童の死亡事故がこの活動の原点となったとして、事故の翌月、同社は児童を対象としたこの取り組みを開始しました。

選考委員特別賞を受賞したはちどりに対しては「バス置き場による死亡事故という非常に痛ましい事件に即座に対応し、活動を開始したところを高く評価しました」と話しました。

選考委員の加藤和夫氏(自動車教育所)は「交通安全教室は、これまで1100人がクラクションを鳴らす体験をしています。同社は自動車産業に長年携わってきたこともあり、石原社長は「幼い頃からクルマは人を幸せにする乗り物と教わってきた」とし、「交通安全教室という小さな活動ですが、子どもたちの命を守り、クルマが人を幸せにする乗り物であり続けるよう努力していますが、無力ではない活動を続けていきます」と話しました。

選考委員長の鎌田美氏(東京学芸大学教授・日本自動車協会)は「今年度は62件の応募がありました。前回に比べて減少してしまいましたが、回を重ねたことで『しっかりとした事業でない』と応募できないのでは」と話しながら出展していただけないかと思いましたが、今年度は非常に優れた事業が多かったという印象です」と選考の感想を述べました。大賞を受賞した自動車技術会の審議では、

「提供できる取り組み、近年では時代の需要に合わせてプログラムなども取り入れています。表彰式で登壇した大津啓司会長は「キッズエンジニアは支部のイベントも含めてあつという間に応募定員が埋まってしまふ人気ぶりです。参加する子どもたちの目は本当に輝いています。時に技術に苦しめられているわれわれ大人たちは、自動車技術が本来はどれだけ面白いものかというのを子どもたちの笑顔から教えられています」と喜びを語っていました。

「今後も自動車技術をキーワードに社会の発展に貢献していきたい」と、子どもたちを含め、育成型な取り組みを育成していきたい」と抱負を述べました。

また、表彰授与後に行われた大賞受賞者のプレゼンテーションでは、東雄一常務理事が取り組みのポイントなどを説明し、「キッズエンジニアは自動車に関わる多くの皆さまからの支援で発展してきました。今後もさらに充実したプログラムを目指し、進化させていきます」と話しました。

選考委員特別賞は「はちどり」を選定した。選考委員特別賞は、自動車教育所を運営するはちどりの交通安全教室が選出されました。2020年9月に、静岡県の認定こども園で発生したバス置き場での児童の死亡事故がこの活動の原点となったとして、事故の翌月、同社は児童を対象としたこの取り組みを開始しました。

選考委員特別賞を受賞したはちどりに対しては「バス置き場による死亡事故という非常に痛ましい事件に即座に対応し、活動を開始したところを高く評価しました」と話しました。

選考委員の加藤和夫氏(自動車教育所)は「交通安全教室は、これまで1100人がクラクションを鳴らす体験をしています。同社は自動車産業に長年携わってきたこともあり、石原社長は「幼い頃からクルマは人を幸せにする乗り物と教わってきた」とし、「交通安全教室という小さな活動ですが、子どもたちの命を守り、クルマが人を幸せにする乗り物であり続けるよう努力していますが、無力ではない活動を続けていきます」と話しました。

選考委員長の鎌田美氏(東京学芸大学教授・日本自動車協会)は「今年度は62件の応募がありました。前回に比べて減少してしまいましたが、回を重ねたことで『しっかりとした事業でない』と応募できないのでは」と話しながら出展していただけないかと思いましたが、今年度は非常に優れた事業が多かったという印象です」と選考の感想を述べました。大賞を受賞した自動車技術会の審議では、



受賞者との記念撮影の様子

本自動車販売協会連合会理事相談役は、「活動期間には多少配慮していただき、新しい取り組みが多数、応募されています」と選考の感想を述べました。選考委員特別賞のほかに、グッドパートナーシップ事業の東日本三菱自動車販売とトヨタモビリティ